

# 新しい保育者のために

鈴木 豊 藏

新しく保育者となられる方々は、その職場で出合う色々の問題について、悩み迷うことであろう。それ等の問題について、穩健中正な立場から、なるべく新鮮な時代感覚をもって読き、それ等の方々が職場で迷わないように案内したいという念願から書いて見たのであるが、紙面の都合もあり、すべての点を尽し得ない憾みがある。

折角縁があつて保育者となつても、現在の制度や経済状態、その他の関係などからその園長や運営の主体となつていられる方々は、なかなか計画的に指導して戴けないのが実状なのです。然しそれでは、新しい先生方は、野放しはされたと同じで、偶然に園で出合う問題について、自然発生経験を重ねて行くに過ぎないという結果に陥つて仕舞う。このささやかな企てが、それ等の方々に、幾分でもお役に立つ点があったら幸いである。

## 一、自らの正しいオリエンテーション

あなたが、新任の保育者として行った時は、丁度知らない土地の駅で下車したと同

じような関係におかれ、逢う人すべて知らない人許り、西も東もわからないのである。その新しい環境の景観の中で、先づ自らのオリエンテーションをすることが大切である。即ちその環境の中で、正しい自分の位置づけをし、関係者と親しみ楽しんで生活が出来るようになることである。

園の位置、交通機関の関係、園の規模、建物の状態など、外観上の位置づけをすることは勿論、殊に最も心を配らなければならぬのは、人的関係である。園長を始め主事や主任の方、その他の先生方、調理婦小使さん、子供たち、皆初対面の方々許りであつて何れの方からも好奇心の眼をもつて見られるであらうし、自分もまた色々の第一印象を得られる。それ等の方々の間にあつて、どのように自分のオリエンテーションをしたらよいか、そしてどのような方針と態度をもつて進んだらよいか、それが適正であるか否かは、将来に大きな影響をもたらすことになるので、極めて大切なことである。

## 二、むづかしい同僚間の関係

園長や主事さん、若い先生や中堅の先生未婚の方や子供のいる方など、人的關係は誠に種々雑多で、社会の縮図のようなものである。それ等の方々と緊密なチームワークをとってお互に力となり合いながら保育の効果を最大限に高めて行かなくてはならない。若し、お互の間にトラブルがあることになる、お互に精神的エネルギーを浪費し、相殺し合うことになって仕舞う。

ところが、この大切な職員間の折合いはなかなかむづかしい問題なのである。殊に女の方は感情が細かに、而も鋭く忖くから一層むづかしい。如何にも親切らしい態度で、職員間のことなどについて、色々教えて呉れる人がある。『園長や主任保母は、あんなこと知っているけれども、実はね……』と。あなたは、世の中の表裏の見悟さや、世知辛さを感じ始めるかも知れない。親切心から色々入れ知恵されても、一応冷静に耳に入れておく程度にして、すべては自分の先入主のない曇りのない眼で直接に見、直接に聞くようにすべきである。

一知半解の不和雷同や、真相を確めないで、悲憤慷慨したりすると、必ず後で後悔

する時が来る。また、子供等の仲間、自然に発生するグループがあるように、職員間にも何かの共通点などから、グループが出来ていることに気付くであろうし、同僚からは、その何れかに入ること促されるであろう。勿論自分の好きなグループに入することは結構である。ただ一つ注意しなければならぬことは、そのグループが、自然発生的に出来たものなら、何の不思議もないが、それが交友とか社交とかの範囲を脱して、一種の政治的運動にまで進むようになる、弊害が伴い易いものだけということである。グループ相互の勢力争いの渦中に入ったり、一部野心家の手先きに使われたりしてはならない。正しい道を歩まないの程自分等の勢力を強くしようとあせり、新しく入った者に、あれこれと手を尽して、自分の味方に引き入れようと、誘惑の手を伸ばして来るものである。

そんな場合に対処する方法は、なかなかむづかしいが、軽々しく同調すべきではない。自分の曇りのない眼で、公平に情勢を見、純真無垢の感覚と、聡明な判断力とをもって、独自の立場を堅持するがよい。そして

若し出来ることなら、あなたの力が、そうした醜い図形を解いて、豊かな趣味と真摯な研究心によって、なごやかな図形を再組織する原動力となることが望ましい。

保育者としての生涯は、最初におかれた同僚関係の図形の如何によって、或る程度方向づけられるといわれる位であるから、ここは一つ、賢明な態度をもって慎重に考えて、善処しなければならぬ。混沌とした変転の激しい社会にあっても、せめて教育に關係をもつ社会だけは、正しいものが正しいとされ、真理が真理として認められしかも寛容で自由な社会にしたいものである。その源泉となるものは、何と云っても職員室のモラルから来る場合が多いことを銘記して貰いたい。

### 三、保育者の苦しみと楽しみ

家庭では一人の子供を育てるのに、容易でない苦勞をしている。保育者は、この小さいお子さん方を大勢お預りして、自分の責任において立派に保育しなければならぬのであるから、その苦勞はなみ大抵なものではない。しかもこの子供達は、一人一

人かけ替えない大切な人様の子供なのである。若し間違いがあつたら、何とも申訳がないし、どんな方法をとつても償いの道がない。従つて少しの油断も障もない勤めとなるわけである。

殊に児童福祉施設の保母さん方は、朝早くから夕方遅くまで、一切母代りとなつておむつのお世話から、大小便の始末、給食のお世話、病氣になつた時の看護、さては交通事故の心配まで、心もからだも少しのゆるみもない。その間に保育の目指す、子供の心身の調和的発達を企図する、積極的な努力をして行かなくてはならないのである。その苦勞の容易でないことと、その責任の重大さから、今更の感を起して、保母の使命感に燃え、可憐な子供たちのために献身努力しようとの決心も怪しくなり、保母としての信念さえ失うようなことがないとはいえない。然し、それも日を重ねるに従つて慣れて来るし、だんだん保育技術のことつを覚えると、案外苦勞は薄らいで来るものである。のみならず、子供に対して何ともいえない愛情が湧いて来る。やんちゃ坊主であらうと、頭の足りない子供であら

うと、本当に可愛いくなつてき、子供もなついで来て、先生を親のように、いや場合によつては親以上に尊敬し信頼してくる。そこに苦勞を苦勞と思わず、愛する子供のために、一切を捧げ尽そうとの勇氣が湧いてくるものである。子供は小さい時、お世話になつた先生は、大きくなつても忘れることはない。先生としての楽しみは子供時代に教えたやんちゃ坊主が、一かどの立派なものに成人して、社会に貢献している姿を見、又その消息を知ることである。そして教育者としての生命は、教え子を通して永遠に社会に生きて行く。物質的に恵まれることが薄く、苦勞がどんなに多くとも、いうにいわれぬ楽しみを味い得るのは、教育者のもつ特権である。

#### 四、子供への愛情

前にも申したように、子供は可愛いものである。愛のない所に教育はなく、愛は人を導く原動力である。然し、その愛情は、教育的に正しいものでなくてはならない。よくいわれる盲愛とか、溺愛とか、偏愛などに陥ることは保育者として厳に慎しな

くはならない。子供の服装や容貌、賢愚などによつて、愛情に厚薄が出来たり、家庭の貧富や、親の地位、門地等によつて、愛情に差が生ずるようでは、正しい教育愛とはいわれない。こころした愛は自然的感情の好き嫌いであつて、教育上の愛とは凡そかけ離れたものであり、寧ろその逆なものである。「人の上に人を作らず、人の下に人を作らず」

といわれ、児童憲章には、「児童は人として尊ばれる」と示されている。すべての児童は人として平等に愛され、尊ばれ、保護育成されなければならない。偏りのない正しい愛情こそ、人を導く者の持つべき第一の資格である。ところが、偏りのない正しい愛情を、すべての子供に持つということは、口では簡単であるが、事實はなかなか容易なことではない。実に難事中の難事であつて、人を導く者に課せられた永遠の課題である。この課題解決のために、お互に修養し努力して行こうではないか。

#### 五、子供の世界を知れ

幼児は、その身体的発達の間からも、精

神的发展の面からも、大人と違った特殊の世界に生きて居りかけ替えのない生活内容を持って居る。大人の世界と幼児の世界は、量的相違だけでなく、質的相違なのである。だから大人を縮小したものが子供ではない。子供は、物の見方や考え方、理解の仕方が大人とは違って居り、興味や欲求の中心点が違う。時計の振子が「おいでおいでをして居る」と思ったり、りんごの皮をむけば痛い痛いと思ったり、虹に乗って天に昇ることも出来ると思っている。実に捉われない自由奔放の想像の世界を展開しているのである。だから子供が一生懸命何かやっている時、大人から見ると、一体何をやっているのか解らないことが多い。保育者は、この子供の目的、子供の心を汲みとってその考えを發展させ、子供の心の成長を図ってやらなければならない。そのためには、児童心理学を研究し、その生活の実態を観察し実験し、子供から学びとることが大切である。子供の地位に身を下して、子供の世界に入り込み、子供と同じに感じ同じに考える本当のお友達になるこ

とが出来て、始めて立派な保育者として子供を引張って行くことが出来るのである。そのためには、子供のようにならぬ心を持ち続け、明朗にして快活、生き生きとした態度を持つていなければならない。

## 六、学理と経験との関係

学理は、過去数百年乃至数千年に亘って数知れない多くの人々が、経験し研究したものを累積し、合理的系統的に組織された貴重な文化財である。われわれは、この先輩の遺産を受け継ぎ、更に経験を重ね、創造力を働かして、より高次の文化財として、次代に引き継ぐべき責任がある。かくして社会の進歩発達が見られる。だから、学理は、われわれの進路を導く羅針盤ともいべき權威あるものである。けれども学理は普遍的な理論であって、いつ如何なる場合、いかなる者にも、しつくり適用されるものとは限らない。その理論を、現実の実態に即して、適用を誤らないようにするのが、保育者その人の技倆である。ことに経験の尊さがある。

然しながら、自分が単なる永い経験があ

るからといって、それを鼻にかけ、何でも自分の経験から割り出さうと考えたり、また困ったことは、何でも経験年数の長い人に尋ねれば、すべては解決すると考えて、理論的研究を軽視するような態度はよくない。個人の経験は、永いといっても、歴史的に見れば極めて短いものであり、なお、そこには個人的偏見も伴い易く、多くは普遍妥当性を欠くものである。また歴史的に見て、過去における先輩の失敗を繰返しているかも知れない。

以上によって、理論と経験の何れを軽視する態度も、適当でないことが判ったと思うが、何れかといえは、自分の技倆において、理論の示す所に従うのが無難だと思ふ。然しながら、学理に従うといつても、特殊性の豊かな実際の場面に、理論を如何にして適用して行くかという点に、攻究すべき問題がある。そこが、保育者の手腕力量に俟たねばならない点である。

## 七、研究的態度を失うな

一般には、幼児の保育を子守役位に考えて、研究というようなことは、何の必要も

ないようによく考えられ勝ちである。これは非常な間違ひであることは申すまでもない。

幼児期の特質や、生涯を支配する性格形成の基礎が培われるこの時期の子供を、如何に導いたらよいかということは、誠にむづかしい問題で、余程しつかりした研究をしてからならなければならない。保育の目的とその内容、幼児の個性問題、保育の理論とカリキュラムの問題、幼児の心身発達の研究、知能や性格の検査法、精神衛生学、異常児の心理学、どこまで研究しても研究し尽せるものではない。その上保育の効果もあげるためには、父兄の指導にまで手を伸ばさなければならない。

進みつつある者のみが、人を導く権利があるといわれるが日々に新たに、一步一步前進の過程を辿って、始めて新時代の知識と感覚をもった保育者となることが出来るのである。

ところが、幾年か勤務している間に、いつしかマンネリズムに陥り、その日暮しになり易い。殊に女性の方は、家庭婦人になると色々家庭的煩わしさが加わって、保育に対する情熱も薄らぎ、研究からも遠ざか

り勝ちである。若い保育者は、今から覚悟して、いつまでも潑刺とした若さと情熱とを失わず、永く研究的態度を持ち続けるようになりたいものである。

八、 服務上の心得

堅苦しいことをいうようであるが、保育者も公務員に準ずる務めに従事するものであるから、勤務上の態度が立派であると同時に、子供や父兄の尊敬と信頼受けるにふさわしい人格、円満な常識を具えて居たいものである。

職務に対しては、強い責任感をもち、誠実をもって一貫しなければならぬ。行き届いた保育の仕方は勿論だが、職員間の融和と協調、来客の応接、電話のかけ方等まで抜け目のない勤め振りを発揮することが大切である。超然と高くとまつて、上席の方々の指図によつてのみ動くというようなら、消極的創意性に欠けた態度は憚しみたい。

殊にその園で定めた、服務上の内規というようなものはよく承知して、それを実践に移すことを忘れてはならない。朝の出勤から、出勤後になすべきこと、遅参・

早退・外出・退勤の仕方から、欠勤・旅行などの手続き、当直制度や慶弔に関するきまり、今までの慣例など、単に自分の常識だけで処理することの出来ない事柄が沢山ある。それらを知らないために、だらしないとか非常識だなどと、思わぬ誤解を招くようなことがある。誠につまらないことである。若し成文になった内規があるならそれをお借りして見て置くがよい。

次に服装その他について一言したい。保育者は、健康に満ち満ちた溢る、元氣と明朗さを持ち、ほんばんはずむむむのようでありたい。同時に、服装にも注意して容姿は端正にして居たいものである。

服装は派手なものでなく、さっぱりとした清潔なもので、出来るなら調和のとれた活動的なものを、きちんと身につける。いつも子供や父兄の目標となるものであるから、言葉遣いや礼儀作法にも注意し、教養ある者としての態度と、氣品とを失いたくない。子供は、親の鏡であると同時に、父母の鏡でもある。保育者の人格は、そのまま子供に反映するものだからである。

(福島県立高等保母学院)